

日本の世界農業遺産について

弁護士知財ネット（農水法務支援チーム）

弁 護 士 服 部 由 美（愛知¹）

弁 護 士 ・ 弁 理 士 松 田 光 代（金沢²）

弁 護 士 長 友 慶 徳（宮崎³）

<目次>

第1 世界農業遺産について（総論）	（文責 服部 由美）
第2 日本国内の世界農業遺産（各論）	
1. みなべ・田辺の梅システム	（文責 服部 由美）
2. 能登の里山里海	（文責 松田 光代）
3. 高千穂郷・椎葉山地域の山間地農林業複合システム	（文責 長友 慶徳）

第1 世界農業遺産について（総論）

(1) 世界農業遺産と国際連合食料農業機関（FAO）

ア. 世界農業遺産とは？

突然ですが、「世界農業遺産」について、お聞きになられたことはあるでしょうか。

「つい先日（2017年7月9日）、『宗像・沖ノ島と関連遺産群』に登録されることになった、あれ？」

それは、世界（文化）遺産⁴です。世界遺産は、世界各地の有形⁵の文化・自然遺産を人類共通の遺産として保護しようというもので、1972年にユネスコ⁶総会で採択された世界遺産条約⁷に基づき登録されます。日本国内における所管官庁は、文化庁です。

1 愛知県弁護士会所属。

2 金沢弁護士会所属。

3 宮崎県弁護士会所属。

4 世界遺産には、文化遺産、自然遺産、及び複合遺産があり、「宗像・沖ノ島と関連遺産群」は文化遺産です。

5 これに対し、「無形文化遺産」は、2003年、同じくユネスコで採択された「無形文化遺産の保護に関する条約」（Convention for the Safeguarding of the Intangible Cultural Heritage）に基づくもので、「歌舞伎」「能楽」などのほか、「和食：日本人の伝統的な食文化」が登録されています（「愛知・名古屋の味噌・酒醸造業 ～和食の『無形文化遺産』登録、『地理的表示』保護制度と共に」知財ぶりずむ Vol.13 No.155（2015年8月号）11頁以下参照）。

6 国際連合教育科学文化機関（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization（UNESCO））。

7 世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約Convention concerning the Protection of the World Cultural and Natural Heritage）。

これに対し、世界農業遺産は、ユネスコと同様に国連の機関である国際連合食料農業機関 (FAO) が2002年に開始した仕組みで、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり形づくられてきた伝統的な農林水産業と、それに関わって育まれた文化、ランドスケープ、生物多様性などが一体となった世界的に重要な農林水産業システムを、「世界農業遺産」⁸ (GIAHS : Globally Important Agricultural Heritage Systems) として認定し、その保全と持続的な活用を図るものです。日本国内における所管官庁は農林水産省となります。

イ. 国際連合食料農業機関 (FAO)

世界農業遺産は、国際連合食料農業機関 (FAO) が開始した仕組みであることは既に述べました。

事の発端は、2002年に南アフリカのヨハネスブルグで開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議」⁹。この会議で国際連合食料農業機関 (FAO) により提唱されたのが世界農業遺産であり、2004年の国際農業遺産 (GIAHS) 運営委員会では、チロエ農業 (チリ)、青田の水田養魚 (中国) などが、最初のパイロットシステムとして選定されました。その実務は、国連食糧農業機関 (FAO) が担っているものの、「実際に運営しているのは、関係国、援助機関、国際機関をはじめ、地域の農家や住民、自治体、農業団体、大学や研究機関、企業などが、国際会議などを契機に構築した、緩やかにつながり合うグローバル・パートナーシップによる」¹⁰といます。

そもそも、国連食糧農業機関 (FAO) 自体、多くの日本人には、あまり、馴染みがないかもしれません。国連食糧農業機関 (FAO) は、1945年10月16日に設立された国連の専門機関であり、194の加盟国、1つの加盟組織 (欧州連合 (EU))、および、2つの準加盟国から成り (2016年9月現在。我が国は1951年に加盟)、本部はイタリアのローマにあります¹¹。その目的は、「人々が健全で活発な生活をおくるために十分な量・質の食料への定期的アクセスを確保し、すべての人々の食料安全保障を達成する」¹²ことです。つまり、国連食糧農業機関 (FAO) の最大の目的は、「世界の人々を食糧不足による飢餓から救うこと」¹³だと言えます。そして、その最大の目的のために、「品種改良や耕地の拡大を進めて食糧の増産を図り、人口増加に見合う食糧の供給

8 国際連合食料農業機関 (FAO) の世界農業遺産 (GIAHS) に関するウェブサイト (<http://www.fao.org/3/a-bp772e.pdf>) によれば、「コミュニティの環境及び持続可能な開発に対するニーズと志向とコミュニティの共適応により発展してきた世界的に重要な生物多様性に富む優れた土地利用及びランドスケープ」(“remarkable land use systems and landscapes which are rich in globally significant biological diversity evolving from the co-adaptation of a community which its environment and its needs and aspirations for sustainable development”)。なお、本稿では、特記がないかぎり、日本語訳は、農林水産省農村振興局農村環境課平成28年1月発行「世界農業遺産」と題するパンフレット (以下、単に、『世界農業遺産』のパンフレット) といいます。http://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/attach/pdf/giahs_1-10.pdf) に従います。なお、ランドスケープとは、「世界農業遺産においては、土地の上に農林水産業の営みを展開し、それが呈する一つの地域的まとまりのこと」をいいます。

9 World Summit on Sustainable Development (WSSD)。

10 竹内和彦『世界農業遺産－注目される日本の里地里山』(祥伝社・2013年) 30頁。

11 外務省のFAOを紹介するウェブサイト (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/fao/gaiyo.html>) より。

12 FAO駐日連絡事務所のホームページ (<http://www.fao.org/japan/jp/>) より。

13 竹内前掲10・31頁

14 「緑の革命」には、「品種改良」と「耕地の拡大」という2つのアプローチがありますが、これにより、食糧生産は飛躍的に増大し、過去30年で約3倍に増えたといわれる一方で、農地の質の悪化や地下水の枯渇、砂漠化など、地球環境に悪影響を及ぼしたとの指摘がなされています。竹内前掲10・40頁以下参照。